明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　櫻井　弘
令和４年５月日
第２号

「あいさつの力」

校　長　櫻　井　　弘

毎年、３年生への面接練習で「石神井中とはどんな学校か教えてください。」と質問すると、誰もが「あいさつが盛んな学校です。」と答えてくれます。反面、保護者の皆様にお願いしている学校評価では、「以前に比べてあいさつが少なくなってきている。」との指摘もあります。ＳＮＳの発達やコロナウイルス感染症の影響もあり人間関係について注目されています。良好な人間関係を築くためにはまず「あいさつ」だと考え、「あいさつ」がなぜ本校の伝統なのか再確認していきましょう。

以前、ある高校の先生が、次のような話をしてくれました。「面接試験では、殆どの受験生が、明るく丁寧なあいさつをしてきます。しかし、控室で何人か先に待機している同じ立場の受験生に対してあいさつできる人は少ないものです。私は、そのようなあいさつができる生徒がいると、面接担当者に、“あの生徒さんは、控室でもしっかりあいさつしていましたよ。”と伝えるようにしています…。」という話です。面接担当者が、その情報を加味しているのかどうかは分かりませんが、あいさつやちょっとした対応で、私たちは、相手や周囲の人たちに、プラスの印象やマイナスの印象を与えることが少なくないのだということを教えられます。

そこで、あいさつの効果について調べてみると次のようなことが分かりました。

１「あいさつをすると気持ちがいい」

あいさつは、するのもされるのも気持ちがいいものです。あいさつをしないということは、「気持ちいい」と感じるチャンスを自ら逃しているということです。

２「あいさつをすると笑顔になるときが増える」

あいさつをするとき、人は無意識のうちに笑顔を作ります。
あいさつをすると自然と笑顔が増える、これは大きなメリットです。あいさつをきっかけにして笑顔を増やしましょう。

３「あいさつをすると人間関係もよくなる」

あいさつをしてもらえなかったり、あいさつをしたのに返事をくれなかったりしたとき、ムッとしたことはありませんか。あいさつをしないというのは相手を認めていない、反対にあいさつをするということは、その相手を認めているということになります。認められていると感じればうれしいものです。そして、良好な人間関係につながっていきます。

４「あいさつをすると常識のある人に見られる」

あいさつというのは礼儀の基本であり、「常識がある人かどうか」を判断する一つの材料です。あいさつに技術はいりません。大きな声で笑顔で「おはようございます」と言うだけです。これだけで、「あの人はしっかりあいさつしができて、とても常識のある人」と周りから信頼されます。

校内で元気に挨拶してくれる生徒、また、授業を見学に行くと授業中にもかかわらずあいさつをしてくれる生徒もいて、一日に何回も嬉しい気持ちになります。皆さんもあいさつに関して、自分なりの考えをもち、そして、「あいさつが盛んな学校」という伝統を受け継いでいることを誇りに感じ、日々主体的に実践していきましょう。